

Instagram の投稿における承認欲求の特性と評価について

1220430 岡咲希

指導教員 那須清吾

研究背景

現代社会で SNS は自身の承認欲求を満たす手段とされている。自身の投稿に対して他者からより良い反応を得るために SNS 活動を頑張る人も多くいるが、頑張るがゆえに、また頑張っている人を見ることで“SNS 疲れ”を感じる人も多くいる。疲れを感じさせてしまうようなネガティブな投稿とそうでない投稿の違いは、その投稿を発信する人、またそれを見る人それぞれの承認欲求の特性の違いが関連しているのではないかと考える。

研究目的

ネガティブな印象を与える投稿とそうでない投稿の違い、また投稿を見る側が感じる印象の違いは承認欲求の特性の違いによるものだと仮定し、特性ごとに投稿をどのように評価するのかを明らかにする。数ある SNS の中で今回は Instagram に限定する。

調査・分析方法

研究協力者アンケートと本アンケート、2 回のアンケート調査を行う。賞賛獲得欲求・拒否回避欲求を測る尺度を用いて両アンケートの対象者全員を承認欲求の特性ごとに 4 つのグループに分類する。研究協力者アンケートでは対象者に自身の Instagram の投稿を提供してもらい、本アンケート対象者がその印象について評価を行う。4 つのグループがそれぞれのグループの投稿に対してどのような評価を行ったかを明らかにし、考えられる理由を心理学モデルから考察する。

分析結果

承認欲求を賞賛獲得欲求高群、拒否回避欲求高群、両欲求高群、両欲求低群の 4 つの特性群に分けられた。賞賛獲得欲求か拒否回避欲求のどちらかを高く保持する群は同じ欲求を高く保持する群の投稿を高く評価する、両欲求低群はどの投稿に対しても低い評価をする、賞賛獲得欲求のみを高く保持する人は本結果の両欲求低群の投稿に対し高い評価をするという 3 つの結果が得られた。

考察・結論

得られた 3 つの結果には“類似性の法則”、“両欲求低群の自己中心性”、“交換不安の未喚起”がそれぞれ考えられると考察した。本研究だけでは承認欲求の特性ごとに Instagram の投稿に対する評価に違いが必ずあるとは言えないことが分かった。また Instagram に限定して行ったため、今後は他の SNS でも同じ結果となるか検討が必要である。